

調査報告

介護施設現場においての実習指導者が抱える実習指導への不安と課題についての調査報告

服部 優子

はじめに

令和3年度以降コロナ禍の中、介護実習施設と介護福祉士養成校は連携して感染予防対策を行いながら学生の介護実習の受け入れや実習環境の整備に努めてきた。しかし介護職員や家族の濃厚接触、感染等で介護現場の負担も増え、やむなく実習の受け入れを休止する施設もあった。その為実習期間の途中であっても実習施設を変更しなければならない事があり、学生にも負担を強いてしまう状況であった。厚生労働省は令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症を「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」に変更した。5類移行による規制緩和で実習受け入れを再開する施設もあったが、休止以来数年間介護実習指導の引継ぎが出来ず、登録実習指導者が異動や退職等で不在となってしまったといったケースが発生している。結果学生への指導経験の少ない介護職員が実習指導を担当する事となり、通常業務に加えて学生の指導を行う事による負担から、不安と戸惑いが生じているのではないかと思われる。実習指導者に余裕がなくなると実習生への指導にも影響が生じ、学生の学びと意欲も低下してしまう。そこで本学が実習をお願いしている介護施設の登録指導者や現場指導者が実習指導において抱えている悩みや課題を調査し、養成校がフォローを行える要素を模索、検討する事とした。本調査をきっかけのひとつとして、介護実習施設と介護福祉士養成校の連携強化につなげていきたい。

1. 調査の概要

(1) 研究目的

介護実習指導者が学生への実習指導においてどのような不安や悩みを抱えているのか、回答内容から課題を明らかにする。また、逆に不安のない指導者の現場ではどのような連携、工夫が行われているのか聞き取りを行い、養成校が各現場へ工夫内容を共有できる場を作れないか、実習指導者へのフォローができないかを検討し、連携の強化を図る。

(2) 調査方法・期間・対象

質問紙法による調査（代表者に手渡し、郵送にて回収）

令和5年8月1日～令和5年12月25日を調査期間とし、「介護施設現場においての実習指導者が抱える実習指導への不安と課題について」というテーマで令和5年度の本学実習施設の登録指導者、および現場で実習指導にあたる職員を対象にアンケート調査を実施し

た。対象は入所施設と、同敷地内のグループホーム、デイサービスとし実習窓口担当者に協力者への声かけと調査票のとりまとめを依頼した。

(3) 調査項目

- ・施設の種類
- ・職種、職位
- ・実習指導者としての立場
- ・実習指導者講習を修了後、実習生を受け入れるまでの期間
- ・実習生の受け入れを行ってどれくらい経つか
- ・受け入れを中断した期間があるか、その理由は何か
- ・実習生を指導するにあたって不安要素はあるか、それはどのようなことか（ない場合はその理由）
- ・自施設で実習指導者の負担を軽減、または実習指導の連携において行っている取り組みがあるか、それはどんな内容か
- ・本学が毎年10月に介護実習施設の指導者を対象に、実習の振り返りを目的とした実習反省会を行っていることを知っているか
- ・本学の実習反省会に参加したいと思うか（思わない場合、それは何故か、またどのような内容なら参加したいと思うか）
- ・実習指導にあたっての不安要素を軽減するために、養成校に期待することは何か

(4) 回収率

本校が介護実習を依頼している介護実習施設のうち11施設に調査協力を依頼した結果、8施設が応じアンケート調査票50通中34通の有効な回答が得られた。回収率は68%である。

(5) 倫理的配慮

アンケート調査票は無記名の上、記入後の用紙は個別に封入する事として施設や個人が特定できないよう配慮した。事前に各施設へ電話や面談時に本調査に関する趣旨説明を行い、調査、研究の目的、意義、方法、倫理的配慮および個人情報の保護、研究結果の公表方法などについて伝達、周知を行った。またアンケート用紙の冒頭に本調査に関する趣旨説明を記載し、回答者一人ひとりに周知できるよう配慮した。本調査・研究は高田短期大学研究倫理規定および高田短期大学介護福祉研究センター倫理規定に基づくものとする。

2. 結果

(1) 施設の種類

特別養護老人ホーム（従来型、ユニット型）、障害者支援施設、デイサービス、グループホームから回答を得られた。

(2) 職種、職位

施設長3名、主任、介護部門の長11名、ケアマネージャー1名、リーダー（ユニットリーダー、サブリーダー、フロアリーダー含む）11名、相談員2名、その他（事務職、介護スタッフ等）7名という結果であった。（重複回答あり）

(3) 実習指導者としての立場

登録指導者14名、実習指導者講習を修了した現場指導者3名、実習指導者講習未修了の現場指導者17名からの回答を得られた。

(4) 実習指導者講習を修了後、実習生を受け入れるまでの期間

1年以内に実習生を受け入れたという回答が11、1～2年開いたという回答が2、2年以上開いたという回答が1であった。回答者のほとんどが実習指導者講習修了後、1年以内に実習生を受け入れている事がわかった。

(5) 実習生の受け入れを行ってどれくらい経つか、実習の受け入れを休止したことがあるか

5年以上受け入れを行っているという回答が15、今年度初めて受け入れたという回答が1という結果であった。受け入れを休止したことがあると回答があったのは3で、そのうち1回答は「コロナ禍で2年」残り2回答は「コロナ禍で1年半」という結果であった。

(6) 実習生を指導するにあたって不安要素があるか、その理由

「不安がある」という回答は23、「不安はない」という回答が5、「その他の回答」が3、無回答が3という結果であった。理由は自由記述にて以下の回答が得られた。

表 1. 不安がある理由、不安のない理由、その他の回答（抜粋）

不安がある理由	<ul style="list-style-type: none"> ・現場にいるので実習生一人ひとりの日誌や介護過程をじっくり見ることが出来ない。 ・職員に実習生の対応を任せているので、職員の業務の負担になっていないか心配。 ・実習生の反応が薄く、こちらの説明が伝わっているのかわからない時があるが、確認するのも失礼と思いきや聞けないことがある。 ・実習指導の内容が学校の授業内容と合っているのか不安になる事がある。授業にあっていない内容での指導で実習生が混乱してしまう事がないのかと思うことがある。
---------	---

<p>不安がある理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から感染予防対策や体調管理について充分指導してもらっていると思うが、他校の実習生の中には何かしらの体調変化や症状が出ていても自己判断で実習に参加している事があった。指導者が検査を受けるよう指示しても何度も拒否されて大変困った。高齢者施設にウィルスを持ち込むことがどれだけ危険なことかを理解してもらった上で、学生に自己判断しないよう指導してほしい。 ・多国籍の学生の文化が異なる事があり、コミュニケーションや説明が難しい。障害者施設の実習なので、障害についてしっかり理解してもらえるように伝えようとはしているが、伝わっていない事が多い。 ・実習生が「介護福祉士になりたい」という思いをなくさないよう努めたい。 ・実習生がいる事で職員に負担感を持たせない工夫が必要。 ・評価の方法が変わってきている事が不安。 ・実習生の背景を考えた時、どこまで指導すればよいか悩む。実習を無事に終えてもらう事を優先した方がよいのか、よい介護職となってもらう為にも時として厳しい指導も必要なのか。実際に指導にあたる職員の思いも考えると複雑。 ・事前訪問だけでは実習生の適性を見極められず、配属先に悩むことがある。 ・実習生が授業で学んだことを理解して実習に取り組んでいるかわからない時がある。 ・留学生の実習生が増えている。どこまで日本語が伝わっているかわからない。 ・外国人実習生が多いので、文化の違いでこちらが失礼な事をしていないか不安。 ・世代の違いで考え方や常識の違いがあり、どう説明すれば理解してもらえるか悩む。 ・非常に不誠実な実習生がいる。 ・実際に介助してもらう時、どの程度までしてもらうか悩む。 ・業務が多忙で常に実習生の傍で指導する事が出来ない。 ・学校でどこまで学んでいるのかわかりにくい。 ・目標が不明確な実習生への指導方法に悩む。 ・目標に沿った実習記録を書いてほしい。目標と関係ない事を書いていることがある。 ・個人の能力を把握し、相手のタイプによってアプローチを変える事ができるか不安。 ・返答に困る質問をされた時の対応に悩む。
<p>不安のない理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・養成校の教員が定期的に巡回に来てくれるので不安はない。何かあった時は相談できるので安心感がある。 ・困った時は施設長も相談にのってくれる為、不安はない。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生が増えたので伝え方に困る時がある。 ・不安というよりは緊張感。利用者のプライベートな生活の中で自然に学習できる環境を作れているだろうか？と毎回思いながら実習生を迎えている。 ・実習生のやる気や意欲があまり感じられず、時代の変化に戸惑っている。

(7) 自施設で実習指導者の負担を軽減、または実習指導の連携において行っている取り組みについて

自由記述にて以下の回答が得られた。全体的に対応人数を増やして負担を分散させようという記述が目立った。

表2. 実習指導者の負担を軽減、または実習指導の連携において行っている取り組み（抜粋）

- ・実習指導は指導者のみでなく、他の正規職員も行っている。
- ・日誌のコメント欄の記入は当日の現場指導者が行っている。
- ・実習指導にあたる職員を日によって変更している。（毎回同じ指導者になって指導が偏らないよう配慮している）指導前には指導にあたっての確認事項を上司に確認している。指導者の負担軽減だけでなく、実習生にとっても担当が変わることで新しい発見、気づきがあると思う。
- ・実習指導者間で実習生の進捗状況を共有している。
- ・複数の登録指導者、現場指導者がいる為1人が集中して担当しなくてもよいシステムになっている。現場担当者以外でも専門の学校を卒業した職員が多数いる為、相談できる環境になっている。
- ・介護課長がその日の振り返りとして実習生の困り事やわからない事についてミーティングを行い、都度の対応を行っている。
- ・事前に会議やユニット内のノート等で実習生に対する注意点等を伝えている。
- ・職種、役職問わず全職員が出席する全体会議を年2回行っている。そこで企業理念を確認し、職員が目指すべき方向性を共有している。指導するにあたり、自分達がぶれない軸があることは心強いと思う。
- ・相手の立場に立って質問が出来る環境や信頼関係を作っている。
- ・指導者だけでなく周りのケアワーカーからの気づきや指導を報告し連携をとっている。
- ・実習受け入れの際、現場指導者やスタッフにも実習生の情報をしっかり伝える事の必要性を痛感している。
- ・指導にあたる職員と常に情報共有できるようにしている。
- ・他のリーダーさんにも助けてもらっている。
- ・経験のある職員に現場指導を分担するようにしている。
- ・基本的に現場の主任クラスの職員や登録指導者が指導を行っているが、ほとんどが養成校を卒業していない為記録についての質問があった時困る事がある。対策として記録物は養成校を卒業した登録指導者や職員にチェックや指導を担当してもらっている。
- ・シフト表に「本日の実習指導担当は〇〇職員です」とわかるように記載されている。
- ・指導者の申し送りノートを作っている。本日の目標、指導した事、気をつけた方がよい事を簡単に書いて共有している。
- ・現場指導者やリーダー以外にも実習生の評価の聞き取りを行っている。

(8) 本学が毎年10月に介護実習施設の指導者を対象に、実習の振り返りを目的とした実習反省会を行っていることを知っているか

「知っている」と回答があったのが18で、「このアンケートで知った」と回答があったのが14、無回答が2であった。（図1）

(9) 本学の実習反省会に参加したいと思うか（思わない場合、それは何故か。またどのような内容なら参加したいと思うか）

「参加したい」と回答があったのが25、「参加したいと思わない」と回答があったのが6、無回答が3という結果であった。（図2）参加したいと思わない理由は「現場のシフトに余裕がない」「自分の担当職場を守ることで精一杯。気持ちに余裕がない」「どんな内容かわ

からない」「仕事が大変なので、養成校ではなく自施設で反省会をしてほしい」という意見がみられた。

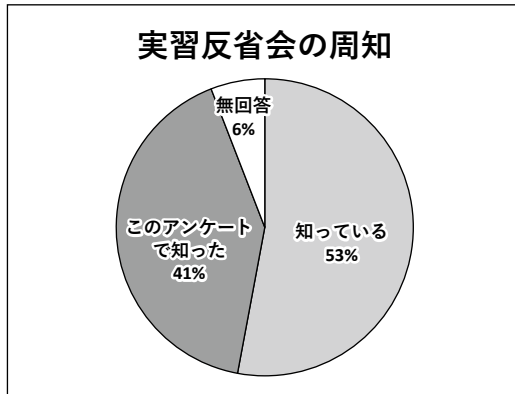


図1 実習反省会の周知

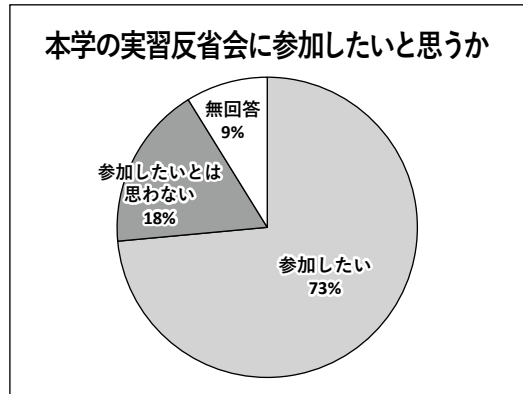


図2 参加の意思

(10) 実習指導においての不安要素を軽減するために、養成校に期待する事は何か

自由記述での回答内容を大きく分けると①意欲のある学生の配属 ②学生への事前指導 ③外国人実習生の対応 ④実習指導者との連携」という4種類の回答が得られた。詳細は以下の通りである。

表3. 実習指導においての不安要素を軽減するために、養成校に期待する事は何か（抜粋）

① 意欲のある学生の配属	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の基本を学ぼうという意欲のある学生を配属してほしい。 ・やる気と謙虚な姿勢を持っている学生に来てほしい。 ・受け入れてよかったと思える学生が来てくれると指導にも熱が入る。
② 学生への事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠ある介護の理解を指導してほしい。 ・実習施設はどのような利用者があるのか、どのような事に気をつけるか等先生方からも伝えてほしい。 ・社会的、基本的マナーを守ってもらえるよう実習前に指導してほしい。 ・内容を理解出来ていない時はその事をはっきり伝えてもらえるよう指導してほしい。せっかく実習に来ているので学んでもらいたい。 ・授業と現場の指導内容（介助内容）が違うことを学生に伝えてほしい。 ・仕事の意味や目的、背景を伝えてほしい。 ・実習に取り組む最低限の知識をしっかりと身につけてから実習に入れるように指導してほしい。 ・実習に入るという事はどういう事なのか、心配だと思える学生には繰り返し指導してほしい。 ・介護過程の展開が弱い。しっかり指導してほしい。 ・日常生活の中でも、小さなことに気付ける習慣が身に付く指導をしてほしい。

<p>③ 外国人実習生の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の指導をしてほしい。記録に何が書いてあるのかわからずコメントにも困る。 ・こちらの日本語が理解出来ていなかったり、違う意味にとられてしまう事があるので、少しでも学生から受け取り方が変だと思われる話が出たら確認してほしい。 ・「この学生は日本語がどこまで理解出来ているのか」というレベルを詳しく教えてほしい。 ・利用者や職員とコミュニケーションがとれるようになってから実習に来てほしい。 ・現在外国人スタッフに通訳やサポートをお願いしているが、もうすぐ退職してしまう。巡回時に通訳の人が来て話をしてほしい。
<p>④ 実習指導者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が展開する介護過程（アセスメント）の内容について、養成校がどのような内容を求めているのか曖昧な点が多い。実習指導者向けに具体的な内容例があるとありがたい。 ・メンタルが弱い、疾病や障害がある、またはグレーゾーンの学生がいる場合はつきり教えてほしい。 ・パソコンが苦手なので日誌のコメントを手書きかパソコンか選択できるとありがたい。 ・学生にとって適切な配属場所がどのようなところがよいか事前にアドバイスがほしい。ゾーンやユニット分けの相談にのってほしい。 ・実習施設と養成校の連絡がスムーズに行えるといいと思う。夜間や早朝など連絡がつきづらい時間帯の対応などマニュアル化するなどの工夫があるといいと感じた。 ・実習生さんと話が出来る時間をもてたらいいと思う。 ・巡回担当の先生に介護過程についてカンファレンス時に相談できたらと思う。 ・評価票をもっと簡素化してほしい。 ・実習反省会を施設で実施してほしい。学校まで行くのは難しい。

3. 考察・まとめ

(1) 介護施設現場のマンパワーの不足

今回の調査を行うにあたって、当初はアンケート調査ではなくインタビュー調査を計画していた。しかし「業務を抜けてインタビューに応じる事は難しい」「現場を離れられない。アンケートなら夜勤の空き時間等で協力できる」という声が多く実現は叶わなかった。またアンケート調査を依頼した施設の中には、コロナウィルス感染予防対策に追われ「対応する余裕がない」という理由で回答を得ることが出来なかった施設もあった。今回協力に応じて下さった施設も、ギリギリの状態の実習指導や協力を努めていただいている事をあらためて認識した。予想していた「実習指導者の引き継ぎが出来ていない施設」はこの調査では見られなかったが、調査協力に応じられなかった施設こそが該当し、本当の意味でサポートが必要であった可能性は否めない。

また、本校が実施している実習反省会について興味を持っている指導者が一定数いるこ

とが判明したが、実際は施設長や登録指導者のみの出席であったり、登録指導者であっても「業務が忙しく、現場を離れられない」と不参加になる事も多い。回答には「実習反省会がどんな内容かわからない」という声もあり、出席者がふりかえりの内容を現場指導者やスタッフ達に共有出来ていない事も伺える。実習反省会では学生達の実習のふりかえりや学びの声をまとめ、今後の実習指導においての意見や気づきについて検討、共有している。その場だけで終わってしまうのではなく、現場のスタッフにも共有を促す声掛けや、時には実習担当教員が施設へ出向いて施設内での反省会を実施し、現場指導者やスタッフの声に耳を傾ける必要が出てきていると考えられる。

(2) 養成校を卒業した外国人スタッフの可能性

取り組みについての回答の中で「外国人スタッフに外国人実習生の対応をお願いしている」との記述があったが、このスタッフが養成校の卒業生である場合、自身も介護実習を経験し、現在は介護現場で働いていることから外国人実習生への通訳、カウンセリング、質問対応等を任せられる立場であったと推測される。外国人卒業生が経験を積み、留学生への現場指導者を担えば、登録指導者の負担の軽減と連携の強化につながるのではないかと考えられる。

また、留学生の日本語能力には個人差が大きく、養成校の教員もその学生がどこまで日本語を理解出来ているのか把握しきれていない事がある。これは留学生に限ったことではないが、出来るだけ巡回担当教員は本人と個別に事前面談し、直接感触をはかること、実習施設では登録指導者に「〇〇の時は理解している様だが、こういうケースの時は他の学生の動きを見てからアクションを起こしており、口頭による指示が理解出来ない可能性がある」等具体的な情報の共有が必要である。その為には介護実習担当教員と日本語指導教員だけでなく、他の教科の教員との情報の共有、連携をより強化していく必要がある。

(3) 指導内容の共有

アンケート要望にあった「実習の意義、目的の説明」「実習時のマナー」「根拠のある介護」「介護過程」については実習前に授業で指導を行っており、評価基準においても各施設に「実習ノート」やルブリックを配布して評価内容の共有を行っている。だが回答から実際の学生の学習到達度や態度がそれに反映されておらず、現場の指導者に負担をかけているという状況がみられた。介護過程においては指導者用に記入例のサンプルを作成し配布する事で、指導の基準になるのではないかとと思われる。実習態度や意識付けについては、各教員で連携して再度周知、指導を行っていく必要があるが「どのような指導を行っているか」という内容を介護現場に共有するために、より簡略化した資料を作成、配布することも一案である。

(4) 相談、会話によるサポート環境の整備

「不安がない」と回答した意見の中には「施設長が相談にのってくれる」「巡回教員に相談できる」と施設内や巡回教員との相談、会話が不安を軽減しているという声があった。登録指導者に限らず、現場指導者も巡回担当教員と相談、会話の機会を作ることが求められていると考えられる。しかし実習担当教員も学生への指導、特に留学生への記録等への指導には1カ所の施設で2時間以上かかる事もあり、移動時間も含めると変則勤務の指導者の時間にあわせての訪問も難しい状態である。また教員はスタッフの誰が現場指導者にあっているか、どこにいるか、会話出来る状態か等の把握が難しく、教員のマンパワーの不足も痛感している。筆者は自身の携帯番号を実習窓口担当者に渡し「困った時はいつでも連絡してください」と伝えているが、現場スタッフ全員に共有されるという訳ではなく、また教員全員が24時間対応出来るかという点も難しい。回答にもあったが「時間外対応マニュアル」の検討、作成を行い共有する事で、双方の負担軽減と連携の強化を図ることが出来ると考えられる。介護実習施設、養成校共に「相談、会話出来る時間」のシステムと環境整備が必要である。

おわりに

本調査を通して、介護実習施設が人員的にギリギリの環境でも実習生の育成に力を注いで下ざっていること、実習の意義や目的についてより学生への周知、指導が必要であること、各施設に実習担当教員が出向しての実習のふりかえりの機会や養成校の指導内容の共有、指導用マニュアルの需要があることが明らかになった。介護実習施設と養成校、双方の負担を軽減するには実習生への指導目的と内容を共有し、巡回教員と現場指導者が会話できる機会を増やすことであると考えられる。各施設に介護実習担当教員が出向して現場実習指導者を対象とした実習反省会を開催出来るよう、本学だけでなく他の養成校や介護福祉士養成協会とも連携して働きかけ、実習指導者のストレスケアとよりよい介護実習指導の実現に近づけていきたい。

謝辞

本研究で私用したアンケート調査に際し、関係者の皆さまに多大なるご協力をいただきましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

参考文献

1. 服部優子 (2022) 「介護現場と養成施設における実習指導と相互ニーズについての意識調査に関する一考察」高田短期大学介護・福祉研究第8号
2. 福田明ら (2018) 「介護実習指導者の「自信のなさ」に関する要因と改善に向けた課題の研究－面接調査結果のテキストマイニングによる分析を通して－」九州保健大学最新

社会福祉学研究 13 号

3. 吉川直人ら（2019）「介護実習指導に関わる介護職員の意識についての考察～介護実習における学びと養成校における学びから～」青森中央学院大学・青森中央短期大学学術機関リポジトリ
4. 名定慎也（2019）「介護職員の実習生に対する意識の構造－アンケート調査の自由記述分析をもとに－」中国学園紀要 18 号
5. 三重県介護福祉士養成施設協議会（2022）「三重県版介護実習の手引き 介護実習ノート」中央法規出版株式会社